

# はじめに

## シンガポール教育視察報告

香蘭女学校 校長 鈴木 弘

今回の海外研修は8月22日から29日までの8日間の日程で、PISA調査で読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーの3分野で世界でトップクラスの教育水準であるシンガポールを訪問し、主に「STEAM教育・プログラミング教育・職業教育」を研修テーマとして視察研修を実施した。参加研修員は幼稚園・小学校・中学校・高等学校・専修各種学校の5学種の学校からの応募者の中から各2名ずつが選考されたが、どのメンバーも各校を代表して応募された未来の教育を担うに相応しい優秀かつ意欲的研修姿勢を持つメンバー構成となった。

また視察に先立ち、コーディネーターとして全視察先に同行頂いた東京大学先端科学技術研究センター客員上席研究員 上松恵理子氏による「シンガポールの教育制度」についての事前研修を、財団で企画して頂き大変有意義な視察準備となったことを報告したい。

さて、シンガポールでの現地視察の報告については、このあとのページでの各々の視察先担当研修員から研修テーマに沿った報告があるので、そちらをご覧ください。

団長として参加した私個人としての視察テーマのひとつが「シンガポールと日本の語学教育の違い」についてだったが、想像通り真に両国の風土や国家情勢の違いそのものにあることを再確認した。というのはシンガポールの国土は東京23区の約1.2倍。総人口は日本の4.5%で、そのうち中国系76%、マレー系15%、インド系7%、その他2%といった多民族国家である。狭い一都市国家の中で多民族が暮らすための共通語としての英語の存在価値は日本と比べ物にならない。英語を学ぶ側にとって「必要」というモチベーションの差には大きな壁を感じた。

さらに異なる民族が母国語でない英語を使うことから発音その他に日本と違って寛容があると現地の日本人が教えてくれた。必要に迫られることで、身構えることなくスムーズに英語が浸透していく背景を理解できた気がした。英語4技能の中の「聞く・話す」の2つに重点を置くことも、我が校に持ち帰りたい。

一方で、視察 3 日目に訪れたシンガポールでトップクラスの大学 **National University of Singapore(NUS)**では日本語を学んでいる大学生のいくつかのグループと話し合う機会を得たが、印象的だったのは日本に憧れ日本が大好きで日本語を学んでいる大学生たちなのに、みんな口を揃えて将来の夢は日本以外の外国で働くことと言っていたことだった。日本とシンガポールの物価の差は勿論だが、それと同様に日本の異常な賃金の低さが優秀な外国人材を日本から遠のけてる現実を目の当たりにし、国家的対策の必要性を痛感した。

最後になってしまったが、視察先で通訳を担当して頂いた会議通訳者の室岡佑佳氏の存在は非常に大きかった。各訪問先で教育専門用語が飛び交う中、彼女の高いレベルの通訳のおかげでより充実した活発な研修となったことをご報告するとともに、レベルの高い通訳を手配頂いた財団関係者諸氏に感謝をお伝えし、次回以降もこのレベルを基準とした通訳の方を維持して頂ければと思う。